

特集

徹底解説

今後の基準開発や実務に影響大

IFRSの**新概念** フレームワーク

Part
1

約30年ぶりの全面改訂

新概念フレームワークのポイント

Part
2

旧FWから何がどう変わった？

新概念フレームワークの内容と影響

- | | |
|-----------------------|---------------------------------------|
| I 新フレームワークの位置づけと目的 | VI 認識と認識の中止(第5章) |
| II 一般目的財務報告の目的(第1章) | VII 測定(第6章) |
| III 有用な財務情報の質的特性(第2章) | VIII 表示および開示(第7章)・
資本と資本維持の概念(第8章) |
| IV 財務諸表と報告企業(第3章) | |
| V 財務諸表の構成要素(第4章) | |

Part
3

整合性を図るものと規定を維持するもの

新概念フレームワーク公表に伴う関連基準の改訂点

Part
4

会計方針の決定の際に要注意

新概念フレームワーク・基準書改訂への実務対応

岩崎 伸哉(有限責任監査法人トーマツ 公認会計士)

IASBから3月29日に「財務報告に関する概念フレームワーク(Conceptual Framework for Financial Reporting)」が公表された。これまでの4章構成が8章構成になり、従来規定されなかった表示・開示の領域も含められるなど、大規模な改訂が行われた。また、これに伴い、関連基準の修正も行われている。

IFRS基準を開発するにあたっての指針となる財務報告の基本的な諸概念であるフレームワークが大きく改訂されたことで、今後の基準開発や実務にどのような影響を与えることとなるのか、新フレームワークの内容や変更点、実務対応について解説してもらった。